



伊豆の国市 議会だより

2006年2月1日発行
No. 2

編集：伊豆の国市
議会だより特別委員会

410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1
☎055-948-1417 FAX055-948-2913



伊豆の国市大健闘 9 位 !! (第 6 回静岡県市町村対抗駅伝大会)

12 月定例会

議案一覧	2
一般質問	3
平成17年度補正予算について	10
常任委員会報告	11

伊豆の国市議会12月定例会 可決承認された議案一覧

- 議案第96号 伊豆の国市固定資産評価員の専任について
- 議案第97号 財産の取得について（守山西公園用地）
- 議案第98号 伊豆の国市と伊豆市との間で共同設置しようとする廃棄物処理施設整備の事務の委託に関する協議について
- 議案第99号 伊豆の国市市営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第100号 伊豆の国市防災センター条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第101号 伊豆の国市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第102号 伊豆の国市心身障害者小規模授産所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第103号 田方精神障害者社会復帰施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第104号 伊豆の国市高齢者介護予防拠点施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第105号 伊豆の国市まごころ市場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第106号 伊豆の国市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第107号 伊豆の国市下水道条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第108号 伊豆の国市韮山生涯学習センターの設置、管理等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第109号 伊豆の国市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の制定について
- 議案第110号 伊豆の国市大仁町史刊行委員会条例の制定について
- 議案第111号 平成17年度伊豆の国市一般会計補正予算（第4号）
- 議案第112号 平成17年度伊豆の国市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
- 議案第113号 平成17年度伊豆の国市老人保健特別会計補正予算（第2号）
- 議案第114号 平成17年度伊豆の国市介護保険特別会計補正予算（第2号）
- 議案第115号 平成17年度伊豆の国市下水道事業特別会計補正予算（第2号）



行政改革とそれに伴う行政組織の見直しについて

板垣紀夫

問 合併の大義である行政改革を来年度予算編成にどう結びつけるのか。

答 行政改革の推進への取り組みは、市行政改革本部を行政内部に立ち上げ、民間有識者による市行政改革推進委員会を設置し、三月までに行財政改革大綱を策定する。

問 来年度予算編成については、一般会計の当初予算額として百六十億円を用途に財源の確保と聖域なき歳出改革に取り組む所存である。行政組織の評価と見直しについて。

答 現在の行政組織の評価については、同規模の三町による対等合併であったので行政組織の構築には種々の困難があった。総合支所方式は経験のないものであり、職員もかなりの苦労があると思う。現在、現行の行政組織における問題点等の整理を進めているところであり、順次

改善していきいたいと考えている。

問 狩野川、鵜の害の認識と対策について。

答 川鵜の被害は全国的に深刻な問題となっており。狩野川のアユにとっても大変な天敵であり、狩野川漁協からも対策を言われている。川鵜は保護鳥で許可なく捕獲できない。数百羽の生息を確認している。対策として巣の状況を把握し、カカシの設置、イノシシやシカの狩猟期間中のオドシ発放による巣に近づけない方法を試し、生息数の減少を図りたい。周辺の環境整備は今後大きな問題である。

問 中山間地域のイノシシ、シカの被害について。

答 タケノコ、スイカ、サツマイモ、クリ等に被害がある。昨年は猟友会の協力で銃、わな、オリによりイノシシ六十六頭、シカ十七頭、カラス百羽を捕獲した。今後は電気柵等の設置をし、優良農地の集中など集落環境の整備を検討していきたい。

介護保険制度策定の経緯と特養建設の可否について

柳沢秀次

問 一点目は、介護保険制度が来年度から三年間第三次として始まりですが、いま市では市民の代表を加え、検討委員会を設置して、制度設定と保険料の具体案を作成中と思います。

答 伊豆の国市となり、基金（残金）は約二億円あります。高齢化が進む中でどんな策定案をつくるのか、保険料はどうなるのか、検討委員会の経緯と今後の進め方を伺います。

問 二点目は、特別養護老人ホームが葦山地区になく待機者が多数おり、その建設が望まれています。市長として、葦山地区に特別養護老人ホーム建設の考えがあるかを伺います。

答 第三次介護保険事業計画の進捗状況ですが、現在策定中であり、十月から三回行い、制度設定はほぼ終わりました。

年内にあと一回開催して保険料を仮決定し、二月末までには計画案を完成させる予定です。

二点目の特別養護老人ホームの建設可否についてですが、多数の待機者がいる現状、中学校区を基本にした施設整備の均等を考え、葦山地区に特別養護老人ホームが必要と考えています。また、施設は民営になると思うが、伊豆の国市民が利用できる枠、五十床を確保していきたいと考えています。



特養老人ホーム いちごの里（江間）

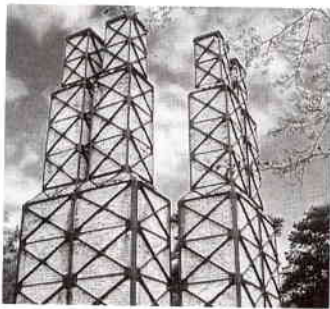
自主財源による主体的な
自治体建設を

鳥居松彦

問 「新市総合計画策定」と市長の所信表明(当市の歴史資産・文化財等の活用について)とは不可分の関連にあると思われるが、そこに生かすべき次のような私案を提言した。

- ① 江川邸・反射炉・蛭ヶ小島を包括する歴史的・文化的な観光散策路の整備。
- ② 反射炉の歴史的意義を考慮した当時の反射炉による鉄製品や、その製作過程等の模型復元と、自然との共生による周辺地域の育成(螢狩り、紅葉狩り、苺狩り等)。
- ③ 蛭ヶ小島をお濠(ほ)で囲み、水路を配して、規模を拡大しつつ、かつ往時の武家屋敷等を再元し、頼朝関連の資料を展示して、伊豆の国桜(仮称)を植栽した庭園を造り、歴史公園とする。

答 今後、関連機関と必要性と効果的な方策について検討していく。



葦山反射炉

問 静岡空港、コミュニティ―空港新設に伴う当市の観光道路並びに生活道路の整備・建設、及び当市の観光地として、何度も訪れてもらうため、現存の観光資源に多くの付加価値をつけることを強く要望した。

答 今後は行政と各界で話し合いながら、特色ある観光資源を生かすため、新設の自動車専用道路は勿論のこと、それに関連する道路網の整備に主体的な役割を果たすことができればと考えている。

合併支援道、県道二二九号線の
整備と城山登山道整備を！

土屋紀男

問 県道二二九号線(葦山伊豆長岡修善寺線)と河川区域との境界線は、官・民地を問わず、堤防が未設置の場所は、河川の洪水位の高さのところまでが河川区域で、堤防より低い県道は、河川占用許可を受け道路が設置されている。

答 合併支援道路として、神島橋から小坂地区にかけての整備計画は、平成十八年度中に、河川法の許可と用地買収を行い、平成十九、二十年間で、堤内地を利用して工事を実施したい。

問 急傾斜対策と治山事業

問 神島橋から小坂間の工事は終結されたが、今後は。

答 小室地区に今年度五十メートル、十九年度完成。今後は子育て地蔵付近までの工事を予定している。

問 神島、泉正院南側山林の地すべりの現況は。

答 昨年の台風二十三号の後、定点測量を五日間続け、特に異常も見られず、危険性のないことが判断された。

問 城山を伊豆の国市のシンボルの山に！

答 城山登山道入口付近の整備と駐車場の設置を。入口付近の案内板の補修とともに駐車場としての整備を図っていきたい。

問 登山する人に危険なく、気軽に登れるように、頂上付近の危険な箇所、テスリ等の設置を。

答 いが、危険箇所の表示やロープ等の誘導等で対処したい。

問 休憩所付近の椅子、テーブルの補修を。

答 当面ペンキ塗り等の補修で対応していく。



城山と川野の狩り発祥の地とまちのシンボル

平成十八年度の
予算編成

土屋源由

問 予算編成の基本的方針、重点課題、地域の特色は…

答 一般会計は百六十億円を目途とすることを指示し、各部署ごとに予算要求の目標額を定めて、総額の抑制に取組んでいます。

また、来年度の重点課題は一番目に水害対策、二番目に安全・安心のまちづくりであると考えています。この実現のために、メリハリのある予算編成を行っていきたく考えます。来年度予算は、持ち寄り予算ではありませんので、各部署ごとに市全体の状況を把握し、緊急性や必要性を考慮した上で編成を行いますので、均衡ある予算になります。

問 補助金、負担金、委託金について…

答 補助金に対しては一つずつ精査が必要であると考えており、今年度の予算執行から所管課と法規担

当、財政担当の三者により、補助金ごとに状況を把握しながら検討を重ね、交付要綱を策定するという方法で精査を行っています。負担金、委託金については、所管課が一つになり、予算編成を行うことから、統一的な考え方で精査しながら編成できます。すぐに統一が困難なものについては今後検討していく必要があります。

問 旧町の継続事業と長期計画は…

答 今後は、旧三町からの継続事業という考えではなく、伊豆の国市としての事業であるという考え方で事業を展開していきたい。そのためには、緊急性や必要性を見極め、優先順位を精査する必要がある。市の財政状況を考慮した場合によっては着手した事業も含め、事業計画の見直しを検討する必要がある。

ごみ処理施設建設 規模は適正なものを

三好陽子

問 葦山・伊豆長岡いずれの焼却場も老朽化しているため、伊豆市と伊豆の国市とで広域に建設することで、進められようとしているが、ごみ資源化の推進、生ごみの堆肥化の検討、費用面など二市と単独の比較検討を行い、適正規模にするべきと思うが。

答 ごみ分別は、おおむね現状の状況で良好にできている。ホテル・旅館から出る生ごみの問題と、畜産関係のふん尿処理施設を合わせた形のものを考えていきたい。平成十六年十一月の一市三町首長による会議で、必要性の認識、費用比較によるメリットが確認されている。

問 広域（二市）または単独どちらが適正かの判断をするには、比較検討した資料が必要であり、提出すべきと思うが。

答 話がもう少し具体的に なってきたらお示しを

していきたい。

市単独教職員の 継続・充実を

三好陽子

問 図書館司書・心の相談員・生活支援員・おじいちゃん先生など、市単独措置による教職員の配置は、効果が大きい。継続・充実すべきと思うが。

答 十八年度以降も、市の教育の充実、子供たちの幸せを図るため、単独措置（充実）を考えております。

長岡保育園の給食は 園内調理に

三好陽子

問 現在、学校給食センターで調理し運んでいるが、現にある給食室を増改築し、保育園内で調理すべきだ。

答 スペース・財源が必要。今後、検討していきたい。



長岡保育園給食風景

暫定施行条例について 飯田史朗

飯田史朗

問 暫定施行条例の今後の取り扱いについて。

答 現在伊豆の国市例規集には、旧町時代の各町独特の条例や規則が暫定施行となっている。

伊豆の国市が真に行政運営を行うには、一日も早く暫定施行条例を検討して、市内全体を対象に制定する条例と、旧三町の類似している条例は整理統合して、新市伊豆の国が目指す「自然を守り文化を育む魅力ある温泉健康都市」の実現に必要な条例として、広く市民に周知することが望まれる。

最後に、一部地域に関する条例の暫定扱いについて、市当局の検討内容を伺った。

答 全地域に適用させるか検討する条例には、葦山町水道水源保護に関する条例、伊豆長岡町空き地の環境保全条例などがある。しかし政策的な判断を要す

るものと、環境アセスメント調査などが必要になる場合も含めて、条例の必要性やねらいを現在検討している。

類似している条例等についても立法事実の確認等が必要と考え、現在検討している。

一部の地域に関係する条例の今後の扱いは、適正な時期に条例等を提案していきたいと考えている。

問 現在の大仁中学校生徒の通学費の補助に関する条例を、市内全校を対象にすべき。

答 少子高齢化の時に、子供たちを大事にするというイメージアップ等、前向きに検討を考えている。



災害備蓄条例・日曜窓口業務の開始について

伊藤 泰伊

災害備蓄条例について

問 新潟県中越地震から一年、体育館を襲ったのは、人間に不可欠の排せつから来る不衛生さ、水が流れず茶色い水であふれた便器。トイレからあふれた汚水で汚れた床に毛布を敷かざるを得ない人たち。水道局関係者も当時のトイレ事情について「もう思い出したくない光景」と話し、東海地震発生が危惧される中、自治体が緊急用に備蓄しているトイレはあるか、早急に災害備蓄条例をつくる必要があるのでは。

答 市では、平常時から警戒宣言発令期間が長期化した場合や、地震災害が発生した場合の生活の確保をするための措置として備蓄を行っており、食料及び生活必需品や飲料水の確保を初め、医療救護、防疫及び保健活動並びに避難所が必要となる設備や資機材を配備し、または必要なとき

直ちに配備できるよう準備をしておくもので、新たに災害備蓄条例の制定については予定をしております。

日曜窓口業務開始について

問 現在は女性が社会へ進出して当たり前、しかも男女雇用機会均等であり、夫婦ともども働く家庭が大事で平日の来庁が困難な市民のために、又日曜の窓口により市民へのサービス向上に寄与し、業務上促進になり得るのでは。

答 通常業務を毎週木曜日の午後七時まで三支所の市民サービス課と税務課、会計課、福祉課で行っております。また、近隣の十二市町において、広域窓口相互交付を実施しており、自分の住んでいる市町以外の役所窓口においても、住民票と印鑑登録証明書の交付を受けることが出来ます。

日曜窓口業務開始は。

答 日曜窓口の開設につきましては費用対効果を踏まえながら検討してまいりたいと思っています。

テレビ放送のデジタル化に伴う難視聴地区の情報インフラ整備について

大沢 秀光

問 関東・中京・近畿の一部地域でデジタル放送が開始されてから二年になりました。現在のアナログテレビ放送は、二〇一一年七月二十四日で終了し、デジタルテレビ放送に完全に移行します。

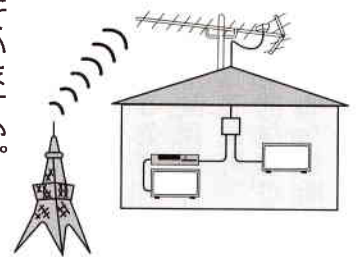
テレビジョン放送が高画質・高音質な映像と音声でより便利で、より魅力的なものに生まれ変わる。

しかし、現在難視聴地区でのテレビ放送は、地域ごとに共聴組合・CATV等によって受信しています。デジタル化により、受信システムの變更等に多額の費用が必要で、独自に対応するのは大変困難です。

①伊豆の国市の基本的な考え方は、どのようになっていますか。

②難視聴地域の設備改修費用は、どのように考えていますか。

③地域住民への説明等は、



考えていますか。

答 ①伊豆の国市エリアは、葛城山中継局、修善寺中継局に大規模中継局を整備する計画です。

地上デジタルは、当市が目ざす電子市役所のサービス提供手段の一つとして位置づけたいと考えています。②国の施策であり、現段階では難視聴地域対策等の具体的な費用などの全体像がいまだ明らかになっていない現状下であり、費用負担については、厳しい財政状況であるので受益者負担でお願いせざるを得ないと考えています。また、国や今後の動向を見据え、検討していきたい。

③地域住民への説明等については、広報・ホームページ等を活用して、市民への情報提供をしていきたい。

どうなるの!? 水道事業・水道料金

古屋 鋭治

問 水道事業は、1市3制度であり、一本化への計画は。また、水道料金は旧3町間で格差があり、市民の水道料金負担の公平性や住民感情から、早期に統一する必要性があるのではないか。

答 水道料金改定は料金格差の改定のみでなく、合併後の水道企業体として将来計画や財政運営を見極めて行なうべきで、17年8月に「伊豆の国市上水道基本計画」を策定すべく業務発注した。旧菰山町、旧大仁町は料金改定が必要であるが、本計画の中で1制度としての料金改定を考慮しており料金改定は同時期が適切と考える。

現在の水道水1トンの単価

	長岡	菰山	大仁
水道料金	65円	70円	42円
給水原価	60円	79円	41円

問 江間の水道水はおいしくないという聞いている、改善の必要性がある。取組み状況はどのようになっているか。

答 江間地区は、旧長岡町の計画に基づき平成16年度から「江間地区送水事業」として推進し、工事も順調で平成18年4月1日には新しい水が供給される。

問 葦山の7つの民営簡易水道を今後どのようにしていきたいと考えているのか。

答 葦山7民営簡易水道のうち坂本、太之田（だいのた）の2簡易水道が平成18年度から市の上水道に統合される。残り5簡易水道の指導もあり、上水道へ統合すべく協議を重ねたい。

問 平成16年度水道事業決算状況などから、料金統一前の旧町単位での値上げの可能性はあるのか。

答 水道料金値上げの可能性については、旧葦山は純利益の落ち込みなどで改定の時期。旧伊豆長岡は積立金5億円以上あり健全経営。旧大仁は利益剰余金が少なく近々改定必要。

県の整備統廃合事業 警察や高等学校

後藤 眞一

警察の整備統廃合

問 市全域が、大仁署の所轄となる機会に課題をとらえ、署の人的物的充実に県に要望すべきではないか。

答 防犯の視点で街づくりに取り組み「安全街づくり条例」を制定し、犯罪予防と啓蒙を図るべきだ。

問 県は、新大仁署の状況を考慮して配置するはずだが、必要なことは要望していききたい。

答 警察と行政と住民との連携で、生活弱者が守られ、犯罪の起き難い街づくりをしたい。学校・児童生徒の安全も含めて、犯罪予防のための点検と管理に努め、犯罪予防の啓蒙、情報の共有化等の促進を図り、生活安全推進協議会設置や生活安全条例制定をしたい。

大仁高校の整理統合

問 大仁高廃校に反対の考えに変わりはないか。

存続運動を起こすべきではないか。

答 県教委は、修善寺工高を候補地として、新設の作業を進めている。だから、大仁高跡地利用の交渉を始めるべきではないか。県立の特徴ある専門学校か、リハビリセンターなどかどうか。

問 大仁高廃校反対である。大仁高も修善寺高も歴史や実績のある学校である。同窓会・後援会・PTA・商工会等の協力を得て、教育長に反対の意思表示を伝えたい。

答 跡地利用は、まだ考えていない。統廃合は地域全体をよく見極めて行うべきだ。

問 教育現場における学校間・地域間の格差を早期に是正されたい。

答 十八・十九年度では正解消を図る計画である。



大仁高校

近隣より高い保育料を 値下げして子育て支援を

田中正男

問 保育料は合併時に所得階層毎に、三町で一番安い所に合わせたが、伊豆市、三島市と比較すると、当市は全ての階層で高い。

答 また、二人以上預けた時の減額措置は、三島市、沼津市などが、全階層で料金が高い下の子を半額としているのに対し、当市は所得の高い階層で、料金の安い上の子を半額としている為違いは大きい。料金の値下げをして子育て支援を。

問 十段階に分け、負担が軽くなるよう考慮している。安心して子育てができ、当市に住みたくなるように子育て支援を積極的に向けて十分検討していききたい。

答 個人情報保護を理由にサービスを低下させない対策を

問 敬老祝金を区長さんから届けると、個人情報だからと渡さず、お年寄りに役所に取りに来るようにし



園児の遊び風景

答 た。また、成人式の通知は、名簿を実行委員会に渡せないで発送せず、希望者は役所に申し込むように広報へ載せた。それにより市民から苦情や不満が出た。個人情報取り扱いの工夫と、サービスを後退させない対策を。

問 市が保有する個人情報（を元に業務委託する場合、名簿を回収するなど）の適切な措置をとり、サービスの低下にならないよう職員への周知徹底を図りたい。

答 個人情報保護により住民が不便になる時は、理由を伝え、理解を得るべきではないか。

問 その時は必ずお知らせして、理解を得られるよう十分説明をさせていた

平成十八年度予算編成と
市内排水計画について

山下孝志

問 合併効果の具現化と市民の要望を、十八年度予算にどのように生かしていくのか。

答 市内十八ヶ所で市政懇談会を開催し、各区から要望書を提出していただいたり、「まちづくりご意見箱」にて直接ご意見を伺うなど、改善と要望を取り入れるための努力をしています。

問 予算編成方針は。

答 徹底したコスト意識のもとに市有財産、豊富な温泉、歴史、文化、農作物、商工業など資産を有効活用し、最小の費用で最大の効果を上げて行きたい。

問 施設の有効利用は。

答 韮山の福祉保健センター等、一年を経過した段階の中で、改めて施設利用等の問題も考えてみる必要がある。

水害対策の抜本的解決は

問 市内排水計画の現状と取り組みについて。

答 早期に「伊豆の国市排水計画」をとりまとめたいて考えています。旧町の公共雨水計画における降水状況や、各排水機場の流域計算などのデータを取りまとめるとともに、これまでの冠水状況やハザードマップなども踏まえ、新しい工法も検討しながら総合的な排水計画を策定します。

「森林新税条例」案に伴う
市の対応について

水口成男

問 静岡県は、危機的状況にある森林の荒廃対策推進のため、来年度から導入する「森林（もり）づくり県民税条例」案と「しず

おか森林と県民の共生に関する条例」案をまとめ、県議会十二月定例会に上程する方針を固めました。

森林が、水源涵養や土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収・貯蔵、酸素の供給、動植物の生息場所、いやしの場の提供など、多様な機能を発揮するには人工林をできるだけ自然に近い森にしないでほしいが。

答 伊豆の国市でも多様な公益的働きを持続的に発揮できる森林を整備して

いく上で、このたびの「森林づくり県民税」の使途先などについて県と十分協議しながら、また森林所有者には市の補助事業である間伐等の優良林育成事業等を大いに活用していただき、

荒廃した森林の再生を図っていきいたいと考えております。

「しずおか森林と県民の共生に関する条例」は、すべての県民の役割を明確にし、連携して森林を整備・保全、活用することによって、森林の有する多面的な機能の維持向上を図ること（森林の共生）を考えています。

間伐等の造林事業を円滑に進めるためにも県の指導をいたしながら、専門知識を持つ森林組合などと緊密に連携をとり、所有者の理解を得ながら森林の荒廃対策を進めていきたいと思っております。

行財政改革の推進を

増島一良

予算額を百六十億におさえる、総額二百六十億の市債返済のためにも、行財政改革は緊急の課題である。強力に推進し改革への市民の大なる期待に応えるべきと考える。

問 六月議会の一般質問で提案した、市役所内の内部組織の推進状況は。

答 市長を本部長とする行財政改革推進本部を設置した。

問 民間からなる行財政改革推進委員会の状況は。

答 市民の男性五人、女性三人で構成、二回聞いた。

問 職員定数及び給与の見直し、事務事業の見直しなど検討されている事項は。

答 「行政サービスと受益者負担」「補助金・交付金」「行政組織」「職員給与・定数管理」などです。

問 市行財政改革大綱と推進実施計画の策定は、いつになるのか。



四日町排水機場周辺



下草がなく土壌が流出した人口林

答 答申の内容を踏まえ、三月を目標とする。

介護保険計画と

介護保険料について

策定中の第三次介護保険事業計画は、私達市民の健康で生き生きとした活力ある高齢期の実現を目指すものでなければならぬ。

問 介護事業と給付費見込総額は。

答 新規施設として特別養護老人ホーム五十床を見込んだ。総給付費は三ヶ年で二十六億三千万円余。

問 待機者を考えると五十床では少ない。増床を。

答 待機者は百五十人ぐらいか、県と折衝をする。

問 現在二千九百円の介護保険料、来年度からいくらになるのか。介護報酬の引き下げもあるので、低く抑える事は出来ないか。

答 また、情報を公開し市民の理解を得ることが必要と思うが。

問 今の試算では、五百円増の月額三千四百円になる予定である。

新市組織の見直しについて

水口 哲雄

伊豆の国市が誕生し、八ヶ月が経過しました。十月一日に新助役も選任され、ようやく新執行部体制も整いました。さて、行政組織は、昨年の合併協議会での決定を受け、本庁と三つの総合支所が設置され、地域住民の利便性の確保、地域振興、生活関連基盤整備等の機能を確保すべく着実に業務が進められていると思います。しかしながら、最初から完全な組織や制度などはありえませんが、八ヶ月が過ぎ、ある程度改善すべき所や、問題点が出てきたことと思います。組織は大きくなればなるほど複雑化するものです。常にその時々

の市民のニーズに合わせた見直しが必要だと思っています。本庁と共にある伊豆長岡支所は、行政効率の面から見ても今後本庁に必要なのでしょうか。また、葦山、大仁の二支所はサードビスの質を落さない範囲で

簡素化が考えられないか。そもそも支所の役割、機能、規模はどの程度が良いと考えているのか。

答 現行の行政組織の問題点の整備を進めている所です。その中で、支所のあり方についても改善をしていきたいと思っています。最終的な結論を出していませんが、総合支所での三課方式は、多少見直しする可能性は出てくると思います。

問 職員の削減計画については、三年で七十人と言われていたが。

答 合併後の行政需要の動向を踏まえながら、定員適正化計画を現在策定中であり、その結果に沿って実施して行きたいと思っています。



伊豆長岡庁舎全景

平成十八年度予算編成の基本方針について

矢田 博美

問 財源不足が見込まれる中、健全財政維持の為に予算編成についての基本方針は。

答 厳しい財政状況下、限られた財源の中で効率化を図り、市民要望に応える行政運営を目指す。

問 市債残高は年々増え、百七十六億円となる。市債発行借入は公債費(返済)以内とし市債残高を減らすことが重要。よって市債発行枠についての考えは。

答 プライマリーバランスの均衡を図り、市債残高を増やさない為、原則として元金の償還額(返済)を借入額の上限としたい。

問 財政調整基金(積立金)残高は大幅減であり、今後の財政運営を勘案すると基金の確保が必要。合併算定替と一本算定の差額九億円の半分は少なくとも積立すべき。

答 合併算定替は財政基盤を整える為の激減緩和

措置であります。行政改革等を推進し、その差額を積立するよう努力します。

問 市債を除く歳入を基本に財政規模を考えると、規模は決算ベース百六十一億円が現状では限度と考えるが。

答 一般会計の適正財政規模は決算状況、事業を考慮すると百六十億円程度を想定。

問 経常的経費節減の推進、投資的経費、繰出金についての考え方は。

答 委託料、賃金など経費の見直しに努力し、投資的経費は安心安全と生活関連を第一に進めていき、繰出金は今後検討を要する内容と認識。

市道宗光寺〜南條間の道路拡幅について

問 この道路は、大仁と葦山を結ぶ主要路線ですが、道幅が狭くすれ違いが危険、南條交差点工事が予定され、迂回路としても拡幅が必要。

答 地域間の交流や通行の安全確保の必要から、県工事前に拡幅を考えたい。

常任委員会報告

平成17年度補正予算

平成17年度補正予算は、議案第111号伊豆の国市一般会計補正予算(第4号)、及び議案第112号から115号までの特別会計が、各委員会に付託され詳細に審議がされました。審議内容は、各委員会報告のとおりです。

総務委員会

総務委員会では、付託された補正予算(第四号)について、所轄の企画部、総務部、三支所の一般会計と、国民健康保険と老人保健の特別会計を審議した。

主な歳入では、県支出金の合併特別交付金七千三百六十万円の説明を求めた。当局より「合併後五年間に七億五千万円の交付予定で、今年は一億円の予定が、県に予算があり追加された。このこともあり、財政調整基金からの繰り入れを、四千六百万円ほど減額することができた。」とのこと。

福祉環境委員会

市民環境部所管の歳入では、広域廃棄物処理施設候補地選定業務負担金百五十八万三千円を計上するものであります。

歳出では、職員の人件費の補正、公園の維持管理費十九万円、広域ゴミ処理施設候補地選定業務委託料三百五十万円、長岡焼却場のゴミ破砕機他改修工事二千八百万円をそれぞれ追加するものであります。

健康福祉部所管の歳入では児童福祉費負担金において、県の母子入所施設措置費等負担金十七万四千円の計上であります。

歳出では、福祉課職員と高齢者支援室職員の人件費の補正、伊豆つくし学園運営費負担金十二万円、母子施設入所者負担金二十三万四千円の計上、県の補助金交付額の減額に基づく田方救急医療協議会負担金十三万五千円の追加であります。委員会では賛成多数であったことを報告します。

観光建設委員会

伊豆の国市一般会計補正予算(第4号)の委員会所管の歳入歳出について、慎重に審議を行い結論を出した。

農林業費では、事業実施の予定(長崎・浮橋等)が変更になった状況を地域には説明済みとの事であったが、議会が補正予算の審議時まで知らないのでは、地域に対して対応出来ない。今後は速やかに報告する事を要望する。

商工費では、電気料等の経費は毎年の実績によるもので、事故等が無い限り大きな補正はおかしいとの意見があり、検討すべきである。

土木費では、合併支援重点道路整備事業に対する市負担も増えて事業実施となる。県事業とはいえ、用地・物権補償には誠意を持って対応する事を要望する。

以上、意見や要望を付けたが、状況変化に対応しての事業など、補正予算は妥当であると確認し、採決では委員全員が賛成した事を報告する。

文教委員会

文教委員会所管の予算は、四百七十六万八千円の増額補正で、予算総額は、二十六億九百九十六万円となりました。

歳入の財源は、教育債であり、長岡図書館のラスト飛散防止工事や、給食職員の一名減での減額もあった。

問 障害児保育事業五百七十八万円の増額は。

答 慈恩二名、榮生一名、ちとせ二名、計五名が補助対象となったための増額。

問 長岡温水プール修繕費八百十九万七千円は。

答 ろ過機の磨耗したギアの取替え工事。

問 ヘルメット購入補助金四万八千円は。

答 葦山地区の小学校から要望があったため。

また、意見として、大仁東小学校区の通学路線バス料金の補助があるが、葦山エメラルド地区からの補助を望む要望があった。

4 常任委員会の取り組み・活動状況

4常任委員会は6名づつで構成され、議員24名全員が任務を担当しています。
 具体的取り組みは、年4回の定例会会期以外でも行っています。

総務委員会

当委員会では、閉会中の事務調査として、三回の会議を開催した。行財政の合理化について、物件費の特に賃金委託料について調査を行いました。

伊豆の国市の当初予算は百七十三億円であり、この限られた予算でサービスを最大限に引き上げるためには、行財政運営の効率化の追及が不可欠であります。

本年度の物件費は、約三十六億円で20・8%を占め、需用費は、九億九千万円で27・6%となっております。

消耗品は、物品購入の集中管理をすれば経費の節減が望めるとしています。

委託料は、十四億九千万円で、物件費全体の54・2%。民間委託が進むと委託料が大きくなる。職員にできるものとできないものとの区別を再認識していただきたい。

物件費は職員の心構えで伸び縮みするのも事実です。伊豆の国市初年度、市職員の英知と努力により大幅な

経費削減をすべきと考えます。

委員会視察研修

平成十六年三月一日、下呂町を中心に四町一村が合併して誕生した岐阜県下呂市を視察研修しました。

人口・生活環境などが当市と類似点があり、また、積極的に改革と合併特例債事業を推進中でした。

合併後、行政改革大綱を作成し、推進本部を立ち上げ、積極的に行政改革に取り組んでいる様子が伺えました。

下呂市へ向かう途中、仙道馬籠宿を見学しました。美濃との境にあり、急な坂道の両側に石を積んで家を建て、旅籠や飯屋が軒を並べていました。

また、帰路高山市に立ち寄り、高山陣屋を中心の開けた街並みを視察。朝市の賑わいには驚きました。

次の松本市では、市街地中心部の整備、特に電線の地中化による街の景観、高質空間の素晴らしさを実感しました。

福祉環境委員会

本委員会の調査項目について、以下のとおり報告します。

最初に市民環境部所管事項の広域廃棄物処理施設整備に関する調査は、十月十八日に、廃棄物処理施設整備組合設立準備会の設立経過や準備会の業務、スケジュール等についての報告会を開催しました。

また、十一月十六日・十七日には、先進地視察を実施し、滋賀県栗東市の環境センターを視察し、最新の焼却施設（全連続焼却式ストーカー炉七十六ト/日と回転式表面溶融炉十ト/日）及び併設されたりサイクル施設を視察しました。

平成十五年三月に竣工した施設ではありましたが、ごみ処理施設とは思えないほど清潔で、気になる臭気や塵埃も感じられませんでした。

特に、この施設の特徴として、市民の学習場としての機能を持つことが印象的でありました。翌日

は隣の甲賀市における生ごみ堆肥化事業の先進地視察を行いました。

次に、健康福祉部所管事項の特別養護老人ホームに関する調査については、十七年八月にオープンしました函南町仁田の特別養護老人ホーム「ぶなの森」を視察いたしました。

この施設は鉄骨造地上四階建、延床面積五千七百五十九・九平方メートル、土地面積三千六百七十七平方メートル、特別養護老人ホーム八十床、ショートステイ十床、デイサービス四十名を有し、他に居宅介護支援事業、在宅介護支援センター事業に取り組んでおりました。

特にこの施設の特徴として、全室個室のユニットケア方式の介護であり、個人の空間を基調とした設計となっております。



■ 観光建設委員会

十月十三日の委員会では、県外研修について最終的な視察内容を協議し、農業振興、観光商工、都市計画等の研修に決定し、担当課より視察先の事前調査を行った。また、市長より中国視察について農業と観光の振興がテーマである事から、関連あるとして説明を受けその目的を確認した。

十月二十日から二十一日に、委員会県外視察研修を実施した。はびる農業公園「みはらしファーム」では、農業を取り巻く環境の変化に対応すべく、関連産業の開発や経営体の育成、営農支援体制の現状を視察し、地域ぐるみでの支援体制のあり方が参考になった。また、松本市では、中心市街地活性化基本計画を策定し、事業実施には様々な整備事業とリンクさせ、電線の地中化や河川整備、歩道の整備や案内・サイン計画など、まちの景観に総合的に取り組んでいる姿勢に感銘を受けた。区画整理等、地域住

民と行政の関係について、踏み込んだ調査をすべきでありと非常に参考になった。

十月二十五日の委員会では、農業振興課の浮橋の温泉掘削の状況について説明を求めた。温泉の利用方法は、来年度に検討するとの説明があったが、農業振興だけでなく幅広く活用方法を検討すべきとの意見があった。また、観光商工課は、今後のイベント等の説明があり、状況調査の為、委員の出席を要請した。また三商工会の動向などについて説明があった。都市整備部は、国・県の事業について現在までの進捗状況を聞き、今後の流れについて説明を求めた。同日、静岡県沼津土木事務所の担当者を招き、意見交換会を行った。平成十七年度以降の主要事業の推移の説明を受け、伊豆の国市内の河川、道路、急傾斜地等の事業推進の計画を確認した。後日、委員会では、国・県・市の実施している工事の視察を行った。

■ 文教委員会

市内教育関係各施設で行ったアスベストの成分調査では、石綿をパーセントを超えて含有する物が規制の対象となった。アスベストは平成十七年四月から、毒性の強いクロシドライトとアモサイトは、使用・製造が禁止されている。

日本で使用されているアスベストは、ブラジルから輸入されている物であり、四十九検体を東洋検査センターへ分析調査を依頼した。そのうち三十三検体は基準以下で異常は認められず、三検体の施設で異常が認められたが、すでに三施設とも改修済みであることが確認された。

また、十三検体を追加分として検査委託をし、広報等でそれらの結果を報告するよう確認した。

大仁中学校

建て替えについて

校舎内外の現況の調査を行った。校舎南側に急傾斜地の指定もあるが、現在地

以外の代替地の考えはなく、特別委員会を設置し、五年計画で検討をしていく。

当局は、鍋沢町営住宅跡地利用については、多くの生徒達が健やかに楽しめる場の提供を考えていきたいとしている。当委員会調査では立て替えの必要性を感じるが、現時点では視察にとどめ、今後も課題として取り組んでいく。



◆ 訂正とお詫び

創刊号内で二点誤りがありました。訂正し、お詫び申し上げます。

◎ 8 P 3段

(誤) 富士見幼稚園

(正) 富士美幼稚園

◎ 10 P 4段

(誤) 歳入では

(正) 歳出では

編集後記

昨年末より、編集作業に入り、慌ただしい中で2号発刊となりました。議会の様子や委員会の活動等を、詳細に市民の皆様へ正確に、いち早くお知らせできるよう取り組んでおります。

創刊号では一部誤りがあり、ご迷惑をおかけしました。今後はチームワークを生かし、愛され親しみある紙面づくりに委員一同一丸となり邁進してまいります。

表紙は第6回市町村対抗駅伝のひとコマです。見事9位に入賞致しました。選手の皆様ご苦勞様でした。

議会だより
特別委員会

委員長 古屋 鋭治
副委員長 菊池 俊彦
委員 伊藤 泰伊
大沢 秀光
後藤 眞一
田中 正男
三好 陽子
柳沢 秀次